

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな 経済フラッシュ

(米国FOMC)

2021/7/29

りそなホールディングス 市場企画部



〇概況

- ◆ 政策金利を据え置きとし、誘導水準は0.00～0.25%。(全会一致)
 - ◆ 声明文では、テーパリングに向けた経済情勢の改善が進んでいることを明記。パウエル議長も議論が具体的に進展していることを紹介
 - ◆ 8/26-28ジャクソンホールシンポジウムではテーパリングについての更に踏み込んだ見方が示されるか注目される
- ✓ FRBは7/27-28のFOMC (連邦公開市場委員会) で、**政策金利であるFF金利の誘導目標を0.00～0.25% (金利据え置き)**とした。全員一致。
 - ✓ 声明文について、景気の強さが続いているものの、依然完全に回復したわけではないことを指摘。**足もとで上昇が続くインフレ率については「一時的要因」が大きいとし、6月のFOMCと認識について修正はなかった。**
 - ✓ 一方、テーパリング (量的緩和の縮小) については、前回の声明文で「今後経済の更なる顕著な改善が確認されればテーパリングを検討することが妥当」としていたが、今回の声明文では**経済はこの目標に向けて進展していると明記し、今後の会合で進捗について評価を継続することとした。テーパリング開始に向けて一步踏み込んだと言える。**
 - ✓ **パウエル議長は記者会見で、テーパリングの議論について具体的に言及。**国債とMBS (住宅ローン担保証券) の買入縮小ペースについて、住宅市場の過熱を踏まえMBSを先行させるとの議論があったことを紹介。自身は同時に進めるとしつつも継続的に議論していくとした。
 - ✓ デルタ株については、ワクチン接種が進んでいること、ワクチンの効果が見られることを前提に対処できるとの見通しを示した。インフレについても上昇は一時的との見方を繰り返し、もし大幅に上振れる時期が続いた場合は、抑制させるツール (利上げ) があるとも強調した。
 - ✓ 声明文でテーパリングに向けた進捗を明記したことはサプライズ。但し、市場は今年末から来年初のテーパリングを既に織り込み済みであり、市場への影響は限定的であった。**8/26-28のジャクソンホールでの経済シンポジウムでパウエル議長は講演の予定。テーパリングに向けて更に踏み込んだ見方が示されるか注目される。**

FRBの景気見通し (6月会合)

	FRB見通し (中央値)			
	2021	2022	2023	長期
実質GDP	7.0↑	3.3	2.4↑	1.8
2021年3月時点	6.5	3.3	2.2	1.8
失業率	4.5	3.8	3.5	4.0
2021年3月時点	4.5	3.9	3.5	4.0
PCEインフレ率	3.4	2.1	2.2	2.0
2021年3月時点	2.4	2.0	2.1	2.0

【出所】FRB

当面のFRB関連スケジュール

	イベント	ポイント
8/11	米国7月CPI	6月ピークが確認できるか
8/26-28	ジャクソンホールシンポジウム	テーパリングの議論具体化
9/21-22	FOMC	利上げ見通しの修正動向
10-11月	次期FRB議長指名	パウエル議長再任メイン
12/14-15	FOMC	テーパリングのアウツメント

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。